

Randy TAKAHASHI, HABURI

“Portrait of Humanity: FACE&LIPS”

1 Apr – 10 Apr 2022

Gallery Hayashi , 16,7,7 Ginza,

Chuo-city,Tokyo,Japan

Opening Reception: 1 Apr 18:00-20:00

2022年4月1日~4月10日

ギャラリー林、東京都中央区銀座7-7-16

オープニングレセプション：

4月1日 18:00~20:00

GALLERY HAYASHI + ART BRIDGE はこのたび、高橋ランディとHABURIによる2人展「Portrait of Humanity:FACE &LIPS」を開催いたします。

ヒューマニティーとは、人間性、或いは人間の心理的性質を表す言葉です。人間が共生する上でヒューマニティーは集団の方向性に左右され、それらが美德（正しい道理）を作り出します。多様性が極めて複雑化し変化している現代社会において、美德も多様を求められ多様な価値観の共存が課題となっています。国籍や性別の境界線が曖昧になり、日本人や外国人、男性や女性と言ったどちらかに分けることができず、その間に”中間領域”が存在します。今回はその”中間領域”の背景を持つ若い二人の作家が日本で過ごす中で感じたヒューマニティーについて表現した展示となっています。

高橋ランディはヒューマニズム（人間中心主義）への皮肉がテーマとなっています。写実的に描かれた動物と唇はヒューマニズムの源流とされるルネサンス期絵画の風情を感じるとともにモチーフはそれとはかけ離れています。高橋の絵画に必ず描かれる唇は人体において内と外を分けている境界線であるとともに前時代的なヒューマニズム（美德）によってできた境界線を意味します。そして、そこに重ねて描かれている動物はルネサンス期には珍しいモチーフでありヒューマニズムを風刺するとともに現代社会が向かっているポストヒューマニズムを思わせます。

Haburiは、自身が内モンゴル出身といった背景からヒューマニティーによって生まれた背景や国籍といった概念の中で狭間にいる人々に向き合いながら“霊と肉”、“精神性”、“内面”、“人間性”、“異邦人”、“不安”、“神経質”、“孤独感”、“外部の世間と隔離”、dark face(暗い顔)といったテーマで描いています。描かれたポートレートは対象となる人物から滲み出る雰囲気、内面、精神性までも表現し、絵に筆の痕跡が残ることで時間が画面に流れているようにも感じます。そして様々な違う文化的文脈で展示されることで絵画は時間と場所を変えて永続的に語りかけてくれます。

## 高橋 ランディ

ベトナムと日本のバックグラウンドを持つアーティスト。異なるバックグラウンドを持つ自らのアイデンティティを探究した作品や人間中心主義への疑問を投げかける作品を制作する。

### ■経歴

1999年 アメリカ ハワイ州 ホノルル生まれ  
2001年 東京都 町田市 へ移住  
2021年 多摩美術大学 美術学部 絵画学科 油画専攻 卒業

### ■展示

2021年 THE 9TH SHENZHEN INTERNATIONAL ART FAIR (Shenzhen Convention and Exhibition Center / 深圳)  
2021年 FUTUR (WK gallery / 北京)  
2021年 五美大展 (国立新美術館 / 東京)  
2021年 卒業制作展(多摩美術大学 / 東京)  
2020年 五美術大学交流展 小作品展(ギャルリラー / 東京)  
2020年 とある主婦と美大生3世代二人展(アメリカショッピングセンター町田根岸店 / 東京)  
2019年 五美術大学交流展 小作品展(ギャルリラー / 東京)  
2019年 五美術大学交流展「NEW AGE」(銀座洋協ホール / 東京)  
2019年 交差する 展(多摩美術大学 / 東京)  
2019年 五美術大学交流展×モダンアートプロデュース「ALL」(Bar 山崎文庫 / 東京)  
2019年 Re:ってフレーズ使ってみよう 展(ぎやらりいシス・クルール / 東京)

### ■プロジェクト

2021年 羽田イノベーションシティ壁画制作(きらぼし銀行テナント)  
2019年 虹かけ教室(多摩美術大学)  
2019年 小豆島壁画プロジェクト(香川県小豆島, 一般財団法人『人間塾』協力)

### ■賞

2014年 第26回 中央展 高文連会長賞  
2015年 第65回 学展 高校部入賞

### ■コレクション

町田市立国際版画美術館

## HABURI

中国、内モンゴル出身のアーティスト。東京藝術大学大学院修士課程を修了。内モンゴルから日本に生活の拠点を移してから実感した、資本主義社会やグローバル化が進む現代社会に生きる個々人のアイデンティティをテーマに制作をする。本展示では内モンゴルで描いた肖像画の作品を複数展示。

### ■経歴

1992年 中国内モンゴル生まれ  
2020年 東京芸術大学美術研究科 絵画専攻 修士課程 修了

### ■個展

2021年 You don't know where I'm from ( F/Actory Gallery / 東京)  
2021年 Still life recently (風の沢ミュージアム / 宮城)  
2020年 OBSCURED LANDSCAPE 遮られた 風景 ( SATO / Café & Gallery 1231 / Commons Space / 岩手)

### ■グループ展

2020年 Small Paintings企画展 (GALLERY IRO / 東京)  
2019年 応激反応 (東京藝術大学 / Yuga Gallery / 東京)  
2019年 EAST ASIAN WAVES - 東アジア出身作家たちによるART EXHIBITION (アトリエムラギャラリー / ギャラリー木川荘 / 東京)  
2017年 東京芸術大学油画研究生報告展 (東京)  
2015年 内モンゴル自治区青年美術作品展 (中国)

mail: [info@g-hayashi-artbridge.com](mailto:info@g-hayashi-artbridge.com)

instagram: [@galleryhayashi.artbridg](https://www.instagram.com/galleryhayashi.artbridg)

web: [g-hayashi-artbridge.com](http://g-hayashi-artbridge.com)

tel: 03-35734291

Gallery Hours 開廊時間

11:00-18:00

会期中無休